

瑞祥新春 日々前進

～前向きに一步ずつ進めよう～

風話鈴香

発行所
尼崎市小中島1-1-18
社会福祉法人
阪神共同福祉会 園田苑
TEL06-6493-3731
発行責任者
理事長 中村 大蔵

私達の目指すもの

- 一、地域に開かれた施設
 - 二、入居者、家族、施設、地域のみんなで作る福祉を！
 - 三、老人と共に生きがいを見い出す生活を
- 社会福祉法人 阪神共同福祉会 園田苑

二〇二二年元旦。園田苑では厨房職員手作りのおせち料理とお雑煮でお祝いをしました。鯛の姿焼きもあり、豪華なお正月となりました。年末にはボランティアグループ「園」の岡田さんが手作りの祝賀袋を、坂本さんが「瑞祥新春」「謹賀新年」の横断幕を届けてくださいました。一二月の園芸活動では入居者の皆さんが春に日光浴とチューリップの花が楽しめるようにとたくさん球根を植えてくださいました。今から楽しみです。



玄関には園田神社が登場し、生け花も飾られました。毎日見に来られた井上さん。「餅花は懐かしいわ。子供の時は食べるものが貴重だったから、焼いて食べたわ」と思い出しておられました。年始には面会も多く、一緒におみくじを引き、賑やかに話も弾み、少しはお正月を感じていただけただけではないでしょうか。

元旦の午後には入居者全員に「園」の皆様から年賀状が届きました。「皆様と楽しい歌が唄える日が一日も早く来て欲しいですね」「コロナのない世の中になってほしいですね」「お会いできる日を楽しみにしています」現在、感染症対策で、面会を中止しています。入居者を対象とした三回目のワクチン接種は一月二六日に実施しました。出来る対策は基本的なこと。慌てない、恐れない、緩めないと平常心を保つようにしています。ご家族、地域の皆様にはご心配をおかけしております。二〇二二年はきっと良いことがあると信じ、前向きに過ごしたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。(施設長 河合 恵子)



明けましておめでとうございます。グループハウスでは、手作りのおせち料理と共に皆さん良いお正月を迎えられました。今年もよろしくお願いいたします。(グループハウスあまがさき)



公衆電話を残せと

全国各地からテレカが

理事長 中村大蔵

神戸新聞に「公衆電話守り続け27年」なるややオーバーな見出しで、苑内設置の公衆電話の記事になった、1月16日その日の内に50枚近いテレカが近所から届けられた。17日には山形県から「新聞読んだ、テレカ送る」との電話。山形県で神戸新聞が読まれていると思ったが、ネットから知った方だった。その日から1月末日まで何と千百枚を越すテレカが送られてきた。郵便配達人もこれにはビックリ。

レターパックあり、小包あり、郵送料不足あり(笑)と多彩である。小包には送り主の地元鹿児島特産、名産のお茶まで詰まっていた。記念にと大切に保管されていたものが50枚も送られてくると、これは驚きを越して感激ものだった。しかも皆さんの過半が住所・名前を記していない。図書券・切手が同封されたものも。そもそも苑内に公衆電話が設置されたのは、入居者が職員に気兼ねなく外部と連絡が取れるようにと、施設開設間もない34年前のことである。それが「27年」との見出しとなったのは、公衆電話が大活躍した阪神淡路大震災の体験談から。

にもかかわらず、NTTの公衆電話リストラ作戦で大激減。電話ボックスをトイレと間違いう幼児も出てきて、公衆電話の使い方を教える学級まで現れた。有事に長蛇の列を作り、住民から重宝されるコインとカード併用の公衆電話を守ろう！